

令和7年度 第4回 八尾市史跡保存活用審議会

日時：令和8年3月19日（木）10時30分～12時

場所：八尾市役所本館6階 研修室

【出席者】

（委員）菱田哲郎：京都府立大学 文学部 教授（会長）

瀧浪貞子：京都女子大学 名誉教授（副会長）

吉川真司：京都大学 名誉教授

網 伸也：近畿大学 文芸学部 教授

清野孝之：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 企画調整部長

箱崎和久：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 都城発掘調査部長

中野眞也：曙川東小学校区まちづくり協議会

（オブザーバー）大阪府教育庁文化財保護課文化財企画グループ 大澤嶺技師

（事務局）観光・文化財課 西澤課長、藤井課長補佐、河村副主査

（傍聴）0名

【欠席委員】長友朋子：立命館大学 文学部 教授

【次第】

1 はじめに

開会挨拶（観光・文化財課長）

2 議事内容

史跡由義寺跡の保存・活用について

案件1：史跡整備事業について

- ・本体整備工事の進捗
- ・ガイダンス施設建築設計
- ・ガイダンス施設展示基本設計
- ・七重塔の復元

【事務局報告事項】

【事務局の動き、整備事業の経過】

（整備スケジュールの確認）

- ・令和7年度より4か年の計画期間で整備工事を実施。令和10年度半ばに終了予定。

（工事進捗）

- ・令和7年度は史跡地内の整備および塔基壇躯体工事を実施。工事は11月から開始し、間もなく終了予定。
- ・工事内容についてスライドで説明（塔基壇躯体、瓦だまり表示近接のフェンス、四阿等）

（ガイダンス施設の建設）

- ・令和7年度は建物実施設計および展示基本設計。次年度、建設工事開始。
- ・建築費の予算を確保。計画通り執行。
- ・4月の入札以降、地元の説明会を経て、工事に着手。

(ガイダンス施設の展示)

- ・展示業務は、令和9・10年度の2か年を予定。

(七重塔模型)

- ・箱崎委員の指導を受けながら基図の作成を進める。

(塔基壇AR)

- ・ARで高さ70mの塔の立体復元を検討。

(その他)

- ・2月10日、文化庁岩井調査官による現地視察。

【委員質疑・意見】

(復元基壇)

- ・基壇を造ってから階段を取り付ける、古代と同じ施工方法を採用していますが、一体的に作らなかった理由はなにかありますか。

→基壇の型枠の関係で、階段は別途作成しました。古代の施工方法を意識したわけではありません。

- ・雨水はどこに流れますか。基壇の中に浸透した水が排出できるようになっていますか。メンテナンスにかかわるため、水抜きがどこにあるのか把握しておいてください。

→南側に排水されます。基壇に溜まる水も排水できるようになっています。改めて、排出場所を確認しておきます。

【事務局報告事項】

[ガイダンス施設建築設計]

(全体)

- ・建物の北側妻部分に七重塔のシルエットを表記し、目立つものにした。
- ・瓦展示は屋内外で行い、屋内では、段階的な葺き方を示すことにした。

(屋外瓦展示)

- ・建物東側の車椅子スロープ部分で瓦を展示。建物は見つからないが、葺き方を伝える展示とした。
- ・由義寺所用の軒丸・軒平瓦を復元展示。
- ・妻部分では南側に南都七大寺式、北側に摂津系の鬼瓦を復元展示。
- ・両端は、海龍王寺西金堂を参考に平瓦を伏せる施工とした。

【委員質疑・意見】

(屋外瓦展示)

- ・展示が不安定に見えます。構造的にどのような素材で造られていますか。風で瓦が落ちたりしませんか。瓦は大変重いです。

→芯はスチール製です。施工担当課から過重計算している旨聞いていますが、施工段階で再度確認します。

- ・垂木も全体がスチール製ですか。

→木で支えることができないため、スチールにしています。

- ・スチールに着色しますか。

→艶消しの着色を施します。

- ・全体が短いのに棟が高く、屋根の雰囲気違和感があります。また、柱一本で支えられているので見た目の安定感に不安があります。支え等があればよいのでしょうか。垂木を2点で支えたいところです。また、屋根下部に棟木を設けてほしいです。柱が直接垂木を受けることはありません。桁があって屋根を受ける構造にしてほしいです。

- ・棟が高いため、内側（スロープ側）に過重がかかりませんか。

- ・車椅子スロープの壁で支えてはどうでしょうか。せっかく造って、すぐに壊れてはいけませんので、業者と打ち合わせして確認してほしいです。

→施工担当課に安全面について確認します。

- ・柱が並んで、間が抜けるというのは不安な気がしますし、このような建物構造は遺跡にはありません。構造的にも違和感があります。築地塀にしてはどうでしょうか。

→（委員）築地塀を造ると、車椅子スロープ部分が暗くなると思います。

→これまでの発掘調査で築地塀が見つかっていない経緯から、今回の瓦展示で議論を進めています。また、実施設計が終えた段階で築地塀をつくることは難しいと考えています。ご指摘のありました安全面について検討します。

- ・見るからに不安定という意見がありましたが、出す部分を圧縮するか、水平の垂木を足すか、何かしらの安全対策を万全にしてほしいです。実施設計が完了しているため、どこまで反映できるかはありますが、工事施工の際に図面を起こしていくとのことですので、その段階で対処できるところは対処してほしいと思います。

→工事施工図の段階で対応を検討します。

- ・柱の下に基壇風の土台があるようにみえますが、そのような土台がつくのですか。

→台は設けません。

- ・屋根付近に「頭上注意」等、いくつかの注意喚起が必要だと思います。

- ・背の高い人だと頭を打つと思います。スロープの後ろに支えなどを設けると良いかもしれません。

- ・両端の鳥衾は歴史的に見たことがない形で、本来はラッパ状をしています。平城宮を例に丸瓦を置くのもよいと思いますが、施工図の再検討が必要です。

- ・ディテールが時代に合っていないと思いますので、屋根構造を専門の委員にチェックしてもらってください。

→施工図の段階で再検討します。

- ・棟に高さがありますが、鬼瓦で合わせているのですか。

→南都七大寺式の鬼瓦で合わせています。

(ガイダンス施設の南側の下屋)

- ・屋根構造が不明です。この構造で瓦を支えることはできますか。安定させるために内側に垂木をすえないといけません。
- ・古代衣装を見せる場所にもなっていますので、屋根は安全なものにしなければなりません。

→安全面については、施工担当課に確認がとれていますが、再度確認します。

- ・この部分は瓦葺きにする必要がありますか。瓦の展示があちらこちらにあります、ここはアクセントとして造るのでしょうか。

→アクセントの意味があり、南側から来られた方、駅から来られた方に対して示しているものです。

- ・あまり強調しなくてもよいと考えます。たくさん造作するとそれをケアする必要が発生します。
- ・エントランスまで屋根を伸ばさないのはなぜですか。

→長さや高さが合わないため、前回の議論の上、外しました。

- ・瓦の大きさは一緒ですか。また、同じ文様にしますか。

→パース図では大きく見えますが、同一の大きさになります。塔所用瓦を復元展示する予定です。

(その他)

- ・南側の壁はどのように使われるスペースですか。視覚的に古代衣装を多く展示してはどうでしょうか。

→壁の裏側は古代衣装の更衣室にあたるため、外の衣装展示スペースを広げることができません。

- ・女子トイレの数量の変更はできますか。

→施設自体が狭小のため、変更はできません。

【事務局報告事項】

【ガイダンス施設展示基本設計】

- ・土層剥ぎ取りのほか、瓦や石材の展示を検討。
- ・屋外の七重塔模型や復元基壇をARで表現し、由義寺全体の理解に繋げる。
- ・その他、パース図を基に展示コンセプトを説明。
- ・令和8年度の夏頃に実施設計の大枠を固める。

【委員質疑・意見】

(利用に関すること)

- ・座る場所がありますか。映像を見るのに椅子が必要ではないでしょうか。また、ボランティアが集まってなにかする上でも、そのような機能を持たせておくほうがよいと考えます。

→座るスペースは設けていませんが、そのような利用を念頭に検討します。

- ・小学生一クラスは入りますか。全員が建物に入ることではなく、半分の15人程度が外の展示を見学し、もう半分は屋内の展示を見るといった利用が想定されます。そのため、学校利用の方法を考えておく必要があります。学校と相談はしていますか。

→学校教育へのアプローチはしていないため、相談します。市内の小学校では、一クラス30人を超えるところもありますので、半分ずつで見学できるような方法を検討します。本市においても、文化財施設の課題として、子どもの減少に伴う来館者減があります。歴史民俗資料館では、交通事情によりJR沿線の来館者が少ないとききます。そういった意味では、由義寺跡はJR沿線の子どもたちが来てもらえる場所になると考えています。そのためにも、学校利用の促進をしていかないといけないと考えています。

- ・駅から歩いて行けるのがメリットですので、学校利用を促進してほしいと思います。小学生は、博物館に毎年必ず来てくれます。その方たちの目線で検討してほしいです。
- ・小学生や中学生が西京、由義寺をイメージしやすいものを検討してほしいです。
- ・復元画で表現する方が理解しやすいと思います。西京を含めた想像図があれば良いかもしれません。その絵を作成するまでのプロセスも大事です。
- ・施設名称についても早めに案を提示してほしいです。審議会で名称、その根拠等を説明してもらえますでしょうか。

→提示します。

(設備に関すること)

- ・風除室と展示室側にカウンターを設けていますが、両方に必要でしょうか。

→風除室は受け入れカウンターとして設置し、展示室側でも窓口として設置します。館内が閉鎖的にならないように検討しました。

- ・展示室側では、しおんじやま古墳学習館のように物販を販売して活用するのが良いと思いますが、将来的にそのように使う予定はありますか。

→物販エリアとしての使い方も検討しています。外側(風除室)ではスペースが限られることから、展示室側にも設けた経緯があります。

- ・しおんじやま古墳学習館のように、由義寺跡独自のミュージアムグッズを販売するなど、行った記念になにか買いたくなる物を考えておいてください。
- ・展示スペースが限られていますので、展示室側のカウンターを展示にあてることができないかと思いました。ただ、カウンターを無くすと、ボランティアと事務所との距離が遠くなるなど、安全面で考慮する必要があるかと思います。
- ・防犯対策で考えると、塞がっていないほうがよいでしょう。防犯カメラもありますが、空間が繋がっていたほうがよいのかもしれません。

→閉鎖的にしたくない思いが強く、事務室から展示室が見えるほうが、距離感を感じられると考えています。そのような考え方から、しおんじやま古墳学習館の設計の際に、

カウンターを設けました。

- ・天井を張っていませんが、夏場はかなり熱くなりませんか。

→機械設備の部分で、施工担当課に確認しています。夏場に限らず、安定していると思います。

- ・張らない理由はなにかありますか。

→展示室が狭小なため、圧迫感を解消するため、このような構造にしています。

(古代衣装)

- ・古代衣装を着て外に出ることは可能ですか。

→名前を控えたうえで、古代衣装を着て基壇の方に訪れてもらえるようにしたいです。

万博でも、大屋根リングで着装された方が写真を撮って喜んでおられたので、今度は、基壇で撮影してもらえたらと思います。

- ・若い人たちも衣装を着ることを楽しんでいると思いますのでよろしくお願いします。
- ・実際、基壇で撮った写真をガイダンス施設で展示して、行ってみようと思わせるような工夫をしてほしいです。
- ・古代衣装の展示では、称徳天皇と道鏡のみですか。他はありますか。

→他にも作成しています。

(屋内・屋外瓦展示)

- ・パース図でみると、展示物が多く、狭小に感じてしまいます。
- ・瓦屋根を復元するとなると、いい加減な復元はできません。現状、建物的には有り得ない構造のため、大幅な修正が必要になります。
- ・瓦展示は不要ではないでしょうか。葺いていく過程を屋外で表現できませんか。
- ・ほかの展示物は壁に設置するため安全と思いますが、この部分は大丈夫ですか。
- ・スペースが狭く、見学しづらいと思います。
- ・スペースを考えると映像展示の方がよいのかもかもしれません。広い空間であればアクセントとして瓦屋根を設けるのはよいですが、狭小スペースの場合、展示物が占めるのは、はたしてよいのでしょうか。基本設計の段階で展示スペースが狭いことを確認し、今回、瓦展示の要、不要を考えていくという段階にあります。
- ・屋内の瓦屋根の材はどのようなものと考えていますか。

→木材で考えています。

- ・瓦は本当に重たいので、落ちないようにしてほしいです。

→安全面について、施工段階で再度確認します。

- ・瓦研究者にすれば見慣れたもので不要という意見によってしまいますが事務局はいかがですか。

→瓦の葺き方を知らない子どもがほとんどのため、葺き方を伝える大事な部分と考えています。ただ、安全面を前提として進めていきます。

- ・屋外でも瓦を展示しますので、屋内はしないほうがよいと思います。映像を見ている

- 人の横で、瓦の話をする事になり、邪魔になってしまいます。
- ・外の展示で丁寧な解説パネルを設置して、瓦は葺き方を説明し、屋内では、触って大丈夫な模型の瓦をおくなど、内外でメリハリをつけて展示するのがよいでしょう。
- 施設全体の使い方を整理し、展示構成のなかで、ソフトで紹介する内容を検討します。タッチパネルの部分も再検討します。
- ・葺いていく過程がなくなりますが、そこはどうしますか。
- 映像で紹介する方法を検討します。
- ・瓦の比率を分けて展示するので、それを外側で説明することが必要でしょう。そのため、外でできる説明を中でする必要はないという議論になっています。
 - ・屋外で瓦を葺いていく過程を表現するのは難しいでしょうか。
- 室内は木材で表現可能ですが、外は強度や維持的に木材では難しく、野地板の表現はできません。
- ・瓦を葺く過程は上から見ないとわからないので、外の展示では、葺いていく過程の展示は難しいでしょう。室内に展示した場合も同様のことがいえます。下から見てもわからないと思います。
 - ・低い位置に設置することはどうでしょうか、屋内で難しければ、屋外でできませんか。
 - ・瓦展示を全体的に下げるのはどうでしょうか。下げれば安全ですし見る事ができませんか。
- 現時点で下げることは難しいです。前回の議論で、低くすると瓦の上に登ってしまうこと、瓦のメンテナンスが多くなる事が意見でありましたので、高くして見上げる形で進めています。
- ・机の高さであれば登ることはないと思います。そもそも、ずれないように施工しているので大丈夫だと思います。古代の瓦職人も瓦の上ののって作業していましたから割れないと思います。
- 施工担当課と建築設計事務所で高さについて検討し、下げすぎると登られてしまう危険があるという認識で確認しています。
- ・斜面があると、なにをされるかわからないので、難しいと思います。
 - ・30cm ほどの高さであれば、最初は登られる危険はありますが、さほど問題でないと考えます。
 - ・下げた場合でも頭にあたる可能性があるので安全対策が必要になります。いずれにしても、当初からの議論の経過があるため、事務局の意向を確認したいと思います。
- 屋外の展示については当初通りで進めますが、丁寧な解説の設置を検討します。葺き方の展示は、スペースを考えるとソフトで示すほうがよいと考えます。再度、展示全体について検討します。ガイダンス建築工事の一体工事のため、要、不要を調整して決めます。
- ・模型をつかった瓦葺き体験メニューを考えてみるのも良いかもしれません。また、V

R ゴーグルで瓦を見せる方法もあります。よそでは、土器を復元するというのをVRでやっておられるところもありますが、一人ずつしかできないデメリットもあります。そのような活用方法については、展示業務のなかで検討できませんか。いずれにしても、修正可能な部分はある範囲で対応していただければと思います。

【事務局報告事項】

〔七重塔の復元〕

（箱崎委員より基図作成の経過説明）

- ・大安寺の復元CG作成時に参加した。その際のCG作成業者に依頼している。
- ・大安寺のCGから由義寺の基図の作成を進めている。模型には、立面図および断面図が必要である。
- ・塔のCGは、この基図に基づいて作成する。

【委員質疑・意見】

- ・由義寺で出土している金属製品がありましたが、復元に使えるものはありますか。
→伏鉢と想定していた金属製品はありますが、性格が不明確なため、復元には反映していません。
- ・復元に使えるものは他にありますか。
→瓦のみになります。
- ・ガイダンス施設の妻側で使用する塔のシルエットについては、この基図で統一を図らないといけません。ほかと異なる図で誤解を生まないようにしてください。
- ・先日、地域の行事で由義寺跡に100人が集まりました。基壇が段々とできてくれば、地域も喜ぶしますので、よろしくお願いします。

【大阪府より報告事項】

（塔の模型）

- ・文化庁岩井調査官より、建設予定の模型が大きいことから、復元基壇が目立たなくなる懸念があり、委員会で模型の大きさや感覚を現地で確認し、意見をもらうよう指摘を受けています。
- （委員）高さがありますので、基壇に影響がないか現地で確認する必要があります。
- ・1/10 もしくは1/20 どちらもあり得るということです。
- （事務局）予算によりますが、どこまでの部分を表現するかの考え方によります。
- ・1/10 ありきではないですが、現地で確認できればと思います。
- ・素材はなにを検討していますか。
- FRPで進めていますが、他の素材も比較として提示します。

【その他報告事項】

- ・次年度、5月期に審議会を開催予定。
- ・塔基壇について、コンクリートの状況での公開を検討。
- ・7月10日、全史協で関係機関に整備状況を周知。

- ・希望する委員に現地にて整備状況を報告

観光・文化財課課長補佐挨拶にて閉会
以上